

Ⅱ . ポスターセッションの部

ここからは、日本各地から集まった博士課程リーディングプログラムの履修生等と地球研の研究者によるポスターをご紹介します。

今回のセミナーでは、この16件のポスターを軸に企画が構成されています。午前中のポスターセッション（発表者同士でのポスター発表）と対話ワークショップ、午後のポスターフラッシュ発表の題材は、全てこれらのポスターたちです。

ここでは、ポスターの内容を1人2分で説明したポスターフラッシュ発表の記録を、ポスターとともにご紹介します。なお、16件のうち掲載可とされた14件を掲載しています。



1. ポスターの題目と発表者

区分	ID	ポスタータイトル	著者	所属もしくは職位
大学院 など (G)	1	MaaS for SMEs: designing a sustainable shared mobility service for corporate errand needs	Nuren Abedin	九州大学大学院システム情報科学府 / 持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム 博士課程1年
	2	自動運転技術が居住地選択行動に及ぼす影響	角城 竜正	広島大学大学院国際協力研究科 / たおやかで平和な共生社会創生プログラム 博士課程前期1年
	3	人間と非人間の境界を越えるゾウ: タイの「ゾウの村」を事例として	大石 友子	大石 友子 広島大学大学院国際協力研究科 / たおやかで平和な共生社会創生プログラム 博士課程前期2年
	4	ChiikiNoudou: An “ecopreneurial” approach for building communities, the environment, and local economies.	Kloepfer Thomas Michael	広島大学大学院国際協力研究科 / たおやかで平和な共生社会創生プログラム 博士課程後期1年
	5	インティマシーと時間——B. ステイグレルを通じた日常のエコロジーについての考察	大池 惣太郎	東京大学 IHS 特任助教
	6	核の危険を「飼い慣らす」ラ・アーク再処理工場の作業員たち: 不確かな危険とともにいかに生きるか	芝宮 尚樹	東京大学大学院総合文化研究科 / IHS 修士課程1年
	7	アレクサンダー・フォン・フンボルトの環境思想——19世紀の環境破壊報告から	相馬 尚之	東京大学大学院総合文化研究科 / IHS 博士課程1年
	8	言語を手がかりに見出しうるもの —「アマモ」とセリ語の事例—	中川 亮	東京大学大学院総合文化研究科 / IHS 修士課程2年
	9	「もの」を通じて生まれるつながり——プロジェクト FUKUSHIMA! 福島大風呂敷を事例に	蒔野 真彩	東京大学大学院総合文化研究科 / IHS 修士課程1年

区分	ID	ポスタータイトル	著者	所属もしくは職位
大学院 など (G)	10	生活文化が「知」となるために： オープンチームサイエンスという 方法論	宮田 晃碩 近藤 康久	東京大学大学院総合文化研究科 ／ IHS 博士課程 2年 地球研 准教授
	11	定住自立圏における取組策定過 程に関する研究 ～宇和島圏域 を対象として～	土屋 泰樹	東京工業大学環境・社会理工学 院／グローバルリーダー教育 院 (AGL) 修士課程 2年
地球 研 (R)	1	「男」の生き方と生活感覚	大谷 通高	地球研 技術補佐員
	2	国立公園における住民協働型環 境ガバナンスの形成に関する調 査とモデル構築の試み	黄 琬恵	地球研 研究員
	3	アフリカのスラムにおいてサニ テーション価値連鎖をいかにデ ザインするか：「健康価値」に着 目したザンビア、ルサカにおけ る地域コミュニティの活動を事 例として	林 耕次 ほか7名	地球研 研究員
	4	まちづくり推進会議における市 民調査のデザインと実践	王 智弘 熊澤 輝一 木村 道徳	地球研 外来研究員 地球研 准教授 滋賀県琵琶湖環境科学研究セン ター 主任研究員
	5	私達は野生動物とどう付き合っ てきたのか？：大阪府でのシカ 調査を読み解く	原口 岳 幸田 良介	地球研 外来研究員／日本学術 振興会特別研究員 大阪府立環境農林水産総合研究 所 研究員

※ G-02、R-02のポスター発表要旨は、発表者の希望により掲載しておりません。